



予測できない災害に備えて

校長 友生 雅夫

夏休みも残すところ10日あまりとなりました。休みに入る前は、「あれもしたい、これもしたい」といろいろなことが頭の中にめぐったと思います。やりたいと思ったことは十分できたでしょうか。あと少しあります。ぜひいろいろな経験をして素敵な思い出を作ってください。

さて、今年は高気圧の影響で猛暑が続き、雨が少ないことが話題になりました。ただ、8月になり、各地で線状降水帯が発生し、過去に例を見ない大雨が降り、浸水、土砂崩れが次々と起こりました。わずか1～2日で平年8月の降水量の1.5倍ほどの雨が降りました。ニュースを見ると、今回浸水した地域は、ハザードマップでは、浸水が想定される地域になっていたそうです。ただ、浸水箇所をハザードマップで確認していても、まさか1日でそのような状態になるとはわたしたちには想定できません。これからは、気象庁の予報などに敏感になる必要があると感じます。

今から15年前、離島の学校に勤務していました。学校は避難所ではなかったのですが、避難所の公民館が浸水の恐れがあり、学校が避難所になりました。台風の影響で、前線が断続的にかかり、雨が止まない状況でした。崖崩れも起こり、道路が寸断され、50人を超える方が学校に避難してきました。また、次の年も大雨となり、学校が避難所となりました。県道より高い所にありましたが、校庭にはひざ下まで水がたまり、50人を超える方が避難してきました。体育館は床が固いため、畳をもってきたり、段ボールをもってきたりしました。段ボールは、敷布団にも、掛け布団にも、仕切りにもなります。こんなに役に立つとは思いませんでしたが、いざとなるとアイデアがいろいろ出ると感じました。2回目のときは、報道の機会も多く、学校に支援物資や義援金が届きました。各地の方々から洋服や手紙が送られてくるだけでなく、以前勤務された先生からも手紙や義援金が寄せられ、人のありがたさを感じました。

校区内で被災がひどい所があり、手伝いにいきました。地元の高校生もボランティアでたくさん参加しており、一緒に泥出しをしました。土砂が大量で、そんな家庭が何件もあり、災害のすごさを痛感させられました。公民館の敷地内には、畳や電化製品などが積み重ねてあり、「これからどうなるか、元通りになるにはどれほどかかるか」と考えさせられました。中には、2年連続被災された方もおり、町外へ転出をよぎなくされました。災害が起こるたびにそのときのことを思い出します。

現在は、季節にかかわらず気象庁が会見を開き、「100年に1度の〇〇」という報道がなされます。最初のころは、「気を付けなければ」という思いになります。報道が繰り返されると、慢性化してしまい、「またか」という気持ちになりがちです。もし、大雨が、地震が起こったらどこに逃げますか。家族で十分打合せをしていますか。防災用品も含め、事前に話し合いをしてください。いろんなことに備えることが次の対応を早くします。